



対象: 高知大学教職員・学生、大学・研究機関関係者、図書館関係者

## オープンアクセス加速化事業 シンポジウム

# 守る知、 開く知

会場&  
オンラインでの  
**ハイブリッド**  
開催

参加費無料

※ 2月26日追記・林氏と土井氏のご講演の順序が入れ替わりました。

13:35～ 土井 大輔 氏 講演  
14:30～ 林 和弘 氏 講演

令和7年

# 3/13 木

13:30～16:00

会場

高知大学共通教育3号館1階  
310番教室(朝倉キャンパス)  
及びオンライン配信(Microsoft Teams)

※お車でご来場の場合は駐車料金が必要となります。  
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

### プログラム

13:30～13:35

【開会の挨拶】/ 本家 孝一(高知大学理事(研究・医療・評価・IR担当))

~~13:35～14:35~~ 14:30～

林 和弘 氏(文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長)

【オープンサイエンスの潮流と、生成AI・データ駆動型科学が  
変える科学と社会の変容】

~~14:50～15:30~~ 13:35～

土井 大輔 氏(文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室長)

【学術情報流通基盤を取り巻く動向について】

15:30～15:55

舟本 幸福(高知大学研究国際部長)

【本学のオープンサイエンスの取組】

15:55～16:00

【閉会の挨拶】/ 遠藤 隆俊(高知大学理事(総務・企画・危機管理担当))

## オープンサイエンスで 未来を創る

科学技術・イノベーションの最前線に立つ今、すべての大学・研究機関に「データポリシーの策定」が求められています。第6期科学技術・イノベーション基本計画では、2025年までの策定を目標に掲げ、オープンサイエンスの推進を加速させています。

オープンサイエンスは「研究活動の変革」と「社会への貢献」という二つの大きな意義を持つものです。論文や研究データをより広く活用し、知の共有を深めることで科学技術の発展を支えます。しかし、その実現には機密保持・国益・安全保障への配慮が不可欠です。企業秘密、研究成果の商業化データ、共同研究契約情報などは、「オープン&クローズ戦略」のもとで適切に保護されなければなりません。

本シンポジウムでは、オープンサイエンスが単なる「すべての情報の開放」ではなく、戦略的に推進すべきものであることを議論します。また、研究データの管理・公開の重要性が増す中で、大学図書館職員は研究のライフサイクルの理解が求められ、研究者と共に知の創造を支える存在へとその役割も大きく変化することが期待されています。

未来の科学技術を支えるのは、あなたの知と行動。

研究者、図書館職員、そして大学に所属する様々な立場から、オープンサイエンスの新たな可能性をともに探求しませんか？



参加申込  
方法

1 二次元バーコードまたはURLから  
専用申込フォームへアクセス  
<https://forms.office.com/r/ZE4ZL58qNb>

2 オンライン参加をご希望の方には、当日までに参加URLをお送りします。  
kk03@kochi-u.ac.jpのメールが受信できるようにご設定ください。

●主催



●本シンポジウムについてのご不明な点は下記までお問合せください

高知大学研究国際部 研究推進課 〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号  
学術情報課 TEL.088-844-8892 E-mail:kk03@kochi-u.ac.jp

